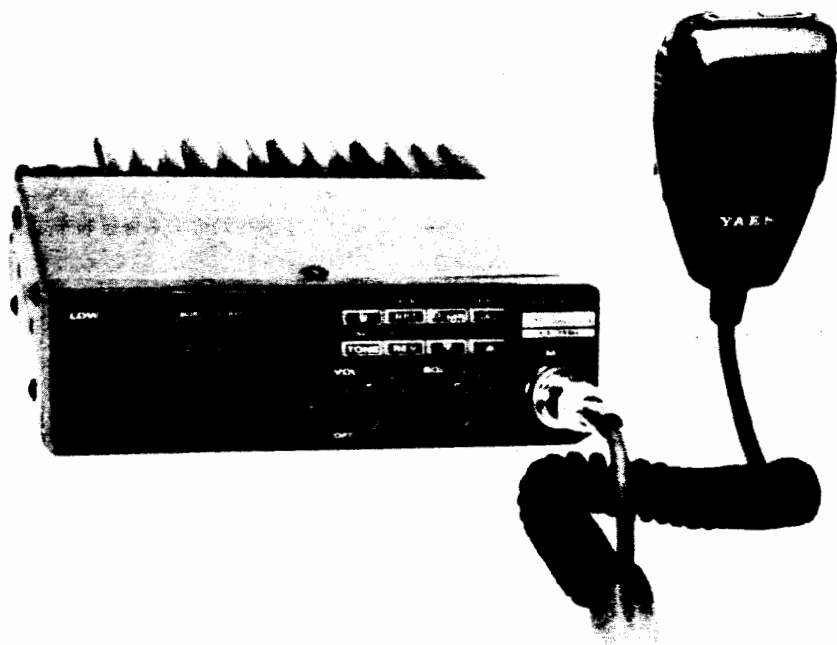


取扱説明書

FT-711L

FT-711H



八重洲無線株式会社

このたびは YAESU FT-711 トランシーバーをお買いあげいただきまして、まことにありがとうございます。

本製品は厳しい品質管理のもとに生産されておりますが、万一運搬中の事故などにもない、ご不審な箇所または破損などの事故がございましたら、お早めにお買い上げいただきましたお店またはもよりの当社営業所サービスにお申しつけください。

●お願い

正しい操作方法をご理解いただくために、お手数でも取扱説明書は最後までお読みくださるようお願いいたします。操作方法に誤りがあると、本製品の性能が十分に発揮できないばかりでなく、思わぬトラブルや故障の原因になることがあります。

操作方法の誤りが原因で故障を生じた場合は、保証期間中でも有償扱いにさせていただきますのでご注意ください。

●アフターサービス

万一故障のときはお買い上げいただきました販売店、もよりの営業所サービスで修理をいたします。営業所サービスステーションの所在地、電話番号はこの取扱説明書のうら表紙に記載してあります。

- ①保証期間はお買い上げの日より1ヵ年です。くわしくは添付してある保証書をご覧ください。
- ②保証期間をすぎた修理の場合、部品代の他に規定の技術料をいただきます。
- ③不良部品を交換のため部品だけをご希望になる場合には、お買い上げの販売店にお申し込みになるか、もよりの営業所サービスステーションまでお申込みください。
郵送をご希望のかたは現金書留をご利用ください。品物だけ先にお送りすることはできませんので、あらかじめご了承ください。

製品の改良のために、取扱説明書の写真などが一部製品と異なることがあります。あらかじめご了承ください。

430MHz帯FMトランシーバー

FT-711L/711H

●廉価で豊富な機能を満載

FT-711シリーズは430MHz帯のFMトランシーバーで、車載用または固定用として設計された廉価で豊富な機能を満載した新しいトランシーバーです。操作性の良さ、人間工学に基づいたパネル面のレイアウトなど、“使いやすさ”においてハムの皆様にご満足いただけるトランシーバーです。

●広角液晶ディスプレイと透過照明キーボードの採用

周波数、メモリーチャンネル、Sメーター／相対出力レベルメーターなど各種の動作状態を確認する液晶ディスプレイは視角が広く、さらに透過照明方式を採用したキーボードは、夜間照明がないところでも大変見やすくなっています。

●パネルの角度が変えられます

トランシーバーを目の高さより低いところに置く場合は、パネル面を上向きにしてお使いください。また目の高さより高いところにトランシーバーを取り付ける場合は、パネル面を下向きにできるのが本機の特長です。

●大容量CPUによる多彩な機能

大容量のCPUの採用により、10チャンネルのメモリー機能、送受信周波数スプリット運用、トーンスケルチ周波数やその他、各種の動作状態をメモリーできるなど多彩な運用がお楽しみいただけます。

●トーンスケルチユニット内蔵可能

オプションのトーンスケルチユニット“FTS-12”を内蔵することにより、37通りのトーン周波数を選択してトーンスケルチ運用が行えます。設定したトーン周波数はもちろんメモリーできます。ただし本機はRPTスイッチを押してレピーター運用をする場合に限り、キャリアは88.5Hzで変調されるような設計になっていますので、国内のレピーターを使う場合はトーンスケルチユニットは必要ありません。

● クローン機能を内蔵

メモリーチャンネルにメモリーした内容を、他のFT-711に転送して複製できるので、クラブのメンバーなどが同じ周波数（複数）をメモリーするのに便利です。

● パケットなどデータ通信用の制御電圧が取り出せます

受信信号が入感したとき電圧がゼロになるような回路がマイクジャックのピン5に出ています。この電圧の変化を利用すれば、データ通信用付属機器の制御が可能です。

● そ の 他

手もとで周波数やメモリーチャンネルの設定ができるリモコンマイク、明瞭度にすぐれた大型スピーカー内蔵、人間工学に基づいたパネルのレイアウト、すぐれた感度と二信号特性や混変調特性、リチウム電池によるメモリー内容のバックアップなど、そして各種のオプションなど充実したハムライフをお楽しみいただけます。

本機の性能が十分に発揮できるように、ご使用いただくまえにこの取扱説明書をよくお読みください。そして本機を正しくご愛用いただき、趣味の王様といわれるアマチュア無線を大いにお楽しみください。

目 次

付 属 品	3
各部の操作と接続	4
ご使用の前に	7
MMB-33型モービルブラケット	9
オ プ シ ョ ン	12
使 い 方	14
各種の機能と操作	16
1. 周波数の設定	16
2. メモリーチャンネル	16
3. スキャンコントロール	18
4. プライオリティ	19
5. レピーター運用(送信オフセット機能)	20
6. トーンスケルチ運用	20
7. その他の機能	21
共 通 定 格	24
ご 注 意	25
故障?と思う前に	26
アマチュア無線局免許申請書類の書き方	表 3

付 属 品

マイクロホン 1
MH-10E8 (M3090052)



電源ケーブル 1
FT-711L用 (T9015605)
FT-711H用 (T9015610)



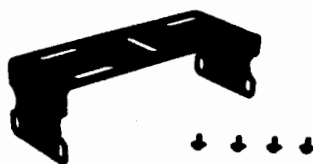
予備ヒューズ 2
FT-711L用 5A(Q0000005)
FT 711H用10A(Q0000007)



外部スピーカープラグ 1
C-107 (P0090034)



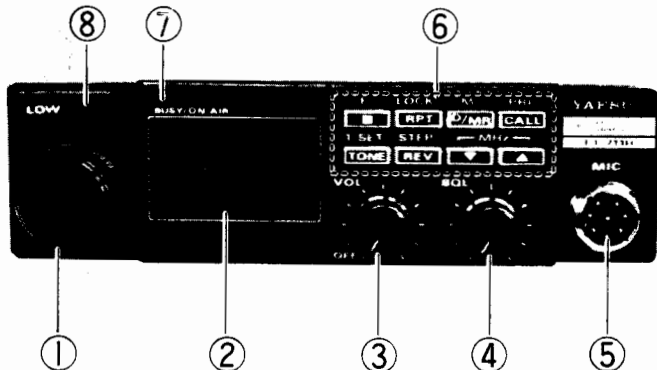
モバイルブラケット 1式
MMB-33 (D6000050)



ゴム足 (S4000039) 4個



各部の操作と接続



① ダイアル

運用周波数の設定（ダイヤルモード時）とメモリーチャンネルの選択（メモリーモード時）を行うメインダイヤル用のツマミ（キーロック時にも動作します）です。

ダイヤルモード時の周波数ステップは10kHzまたは20kHzですが、その切り換えについては16ページ“周波数の設定”の項をご参照ください。

またオプションのトーンスケルチ・ユニットFTS-12を取り付けた時には、このツマミによりトーン周波数の設定も行います。

② ディスプレイ

周波数や各種の動作状態を表示する液晶表示器です。すべての文字と記号が点灯した状態を第1図に示します。

③ VOL

電源スイッチ付きの音量調節ツマミです。反時計方向にまわし切った位置でカチッとスイッチが切れ電源OFF、時計方向にまわすと電源スイッチが入り、さらに同じ方向にまわすと音量が大きくなります。

ファンクション操作有効時に点灯

メモリーチャンネル番号を表示
(プライオリティ時に P コール
チャンネル運用時に [を表示)



トーンエンコーダー、トーンスケルチ
運用時に点灯
スプリット運用、シフト運用時に点灯
リバース運用時に点滅

キーロック時に点灯



S & POメーター

〔第1図〕ディスプレイ

④ SQL

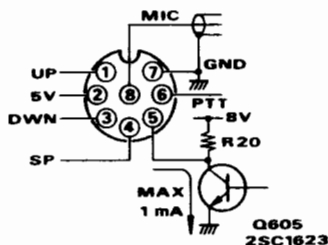
受信信号の入感がないときに出るノイズを消すスケルチ回路の調節ツマミです。時計方向にまわすほどスケルチが深くなり、弱い信号ではスケルチが開かなくなります。

⑤ MIC

付属のマイクロホン“MH-10E8”を接続する8ピンのマイクジャックです。

ピン5には受信信号が入感していないときは8Vが出ており、入感すると0Vになります。

ここに流せる電流は1mAくらいまで、アース・ラインはマイクロホン端子のピン7をご使用ください。



〔第1表〕キーボードの動作説明

	単独で押すと	F キーの後に続けて押すと
F ■	ファンクションキー	ファンクション解除
LOCK RPT	送信オフセット操作 (+5MHzまたは-5MHz)	キーロック操作
M D/MR	ダイヤルモード・メモリーモードの切り換え	メモリーセット操作 5秒間
PRI CALL	コールチャンネル (チャンネル Q) 呼び出し	プライオリティ受信操作
T SET TOFF	トーンスケルチ操作	トーンスケルチ周波数セット
STEP ▼	送受信周波数リバース運用	ダイヤルの周波数ステップ (10kHz/20kHz) 切り換え
▼	ダイヤルモード時は1ステップダウン、メモリーモード時は1つ下のチャンネル	1MHz ダウン
▲	ダイヤルモード時は1ステップアップ、メモリーモード時は1つ上のチャンネル	1MHz アップ

(注) ダイヤルモード：ダイヤルまたはキーボードの **▼**、**▲** キーにより周波数を設定して運用する方法。

メモリーモード：メモリーチャンネルにメモリーした周波数で運用する方法。

⑥ キーボード

メモリー操作、スキャン操作、コールチャンネルの呼び出しなど、各種の操作を行うキーボードです。第1表にそれぞれのキーの動作を示します。

キーボードは夜間に照明がないところでも操作できるように、キーボードの裏面から光があたり(透過照明方式)、文字が浮き出るように工夫されています。

⑦ BUSY/ON AIRインジケータ

受信信号が入感すると緑色、送信すると赤色が点灯するインジケータです。

ただしスケルチが開いている状態では、無信号時にも緑色が点灯します。

⑧ LOW

送信出力をHIGHまたはLOWに切り換えるスイッチです。押すとLOWパワーになります。

⑨ EXT SP

インピーダンスが4~16Ωの外部スピーカーを接続するジャックです。付属のプラグを使って外部スピーカーに接続してください。

スピーカープラグを挿し込むと内部スピーカーの動作が止まります。

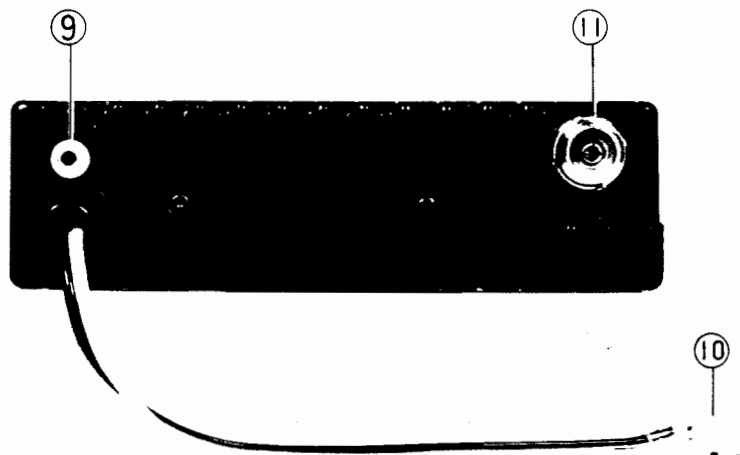
⑩ 13.8V DC

直流13.8Vの電源に接続する電源コードです。付属の延長電源コードをつなぎ、電源に接続します。

極性は赤色がプラス、黒色はマイナスです。

⑪ ANT

アンテナ用の同軸ケーブルを接続するコネクタです。インピーダンスは50Ωです。



ご使用前に(注意事項)

アンテナについて

本機のアンテナ入出力インピーダンスは、 50Ω に調整してありますので、アンテナコネクタに接続する点のインピーダンスが 50Ω であれば、どのようなアンテナでも使うことができます。

モータール運用の場合には、 $\frac{1}{2}\lambda$ のホイップ型などの軽量のものが良いでしょう。固定局の場合には八木アンテナ、キュービカルクワッド、グランドプレーンなど多くの種類がありますから建設場所、周囲の状況に合わせてお選びください。

いずれの場合でもアンテナによって受信感度、送信電波の飛び具合などに大きく影響しますから、アンテナ系統の調整は念入りに行なってください。また 70cm バンドのように波長が短くなると、セットとアンテナを結ぶ同軸ケーブルの損失が無視できなくなりますので、アンテナと同軸ケーブル、同軸ケーブルとセット間の整合を確実にとり、SWRが低い状態で使用するようになしてください。

電源について

本機には直流 13.8V （マイナス接地）、電流容量 4A （FT-711Hの場合は 10A ）程度の電源が必要です。上記の電流容量をもつ直流電源のプラス側端子に電源コードの赤線を、マイナス側端子に黒線を接続します。逆に接続した場合には、逆接保護回路が働いて、電源コード内のヒューズが切れますから、ヒューズが切れた場合には電源コードの逆接続ではないかをまず確認してください。

ただし、規定の電流値より大きいヒューズを入れた場合には、ヒューズが切れるのに時間を要し、その間に流れる短絡電流で保護回路のダイオードが破損して保護回路が働かないこともあり、また車載アンテナやブースタなどが接続してある場合には、逆接続の電圧が同軸ケーブル等を通り電源コードのヒューズを通らないで逆極性の電圧が加わることもありますので、正しい極性での接続と規定電流値のヒューズを使用することを必ず守ってください。

車載時で、長時間使用しないとき、あるいは電装関係の整備をする場合には、電源コードをセットから外しておいてください。

電源コードは最短距離で電源と接続することが必要です。やむを得ず電源コードの延長が必要な場合には、付属の電源コードと同等以上の電流容量のコードを使用し、接続点は確実にハンダ付して電圧降下や接触不良、発熱の原因にならないようにして下さい。(絶縁テープによる処理も確実に行って下さい)

車載で使用するときには、つぎの点を特に注意してください。

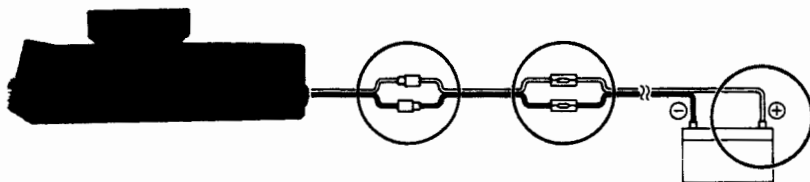
① いわゆる12V型電池を使用している車であること。バス、トラックなどの大型車で24V型のバッテリーを使用している車では使えませんので、このような車では電池の電圧に注意してください。

② 自動車のボディに電池のマイナス電極が接続してある、いわゆるマイナス接地の自動車であること。

③ 走行中など、エンジンの回転数が上がったような場合でも電圧が15Vを超えることがないように、レギュレーターが調整されていること。

④ エンジンを停止した状態で送信を長く続けると電池が過放電になり、つぎにエンジンを始動するときに支障を生ずることがありますので十分ご注意ください。

固定局など100V 50/60Hzの商用電源で使用するには上記容量のAC-DC 定電圧電源が必要でFT-711LにはFP-80A、FT-711HにはFP-700が最適です。



※ FT-711Hの場合は必ず上図のようにバッテリーの端子から電源を直接とってください。

MMB-33型モービルブラケット

FT-711L/711Hにはモービルブラケットが付属しています。車載の場合の無線機の取り付け、あるいは固定で使う場合のアダプターとしてご利用ください。

車載時の注意事項

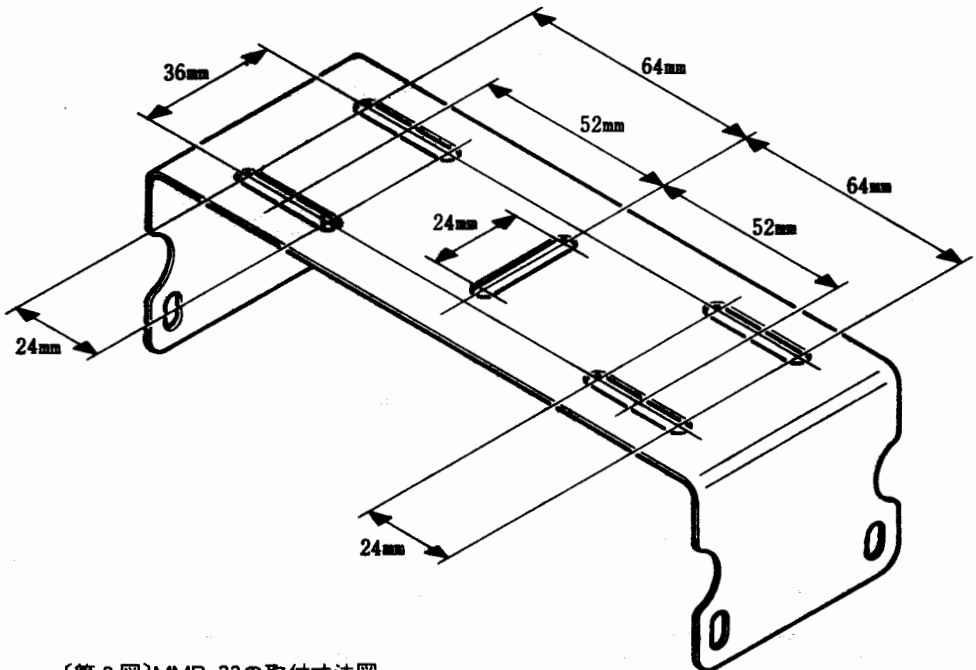
○ トランシーバーの取付場所は、運転に支障のないよう、安全と操作性を考えてください。（急停車などを行った時の同乗者への危険防止にも配慮してください。）

またヒーターからの熱風などが、直接当たらない場所を選んでください。

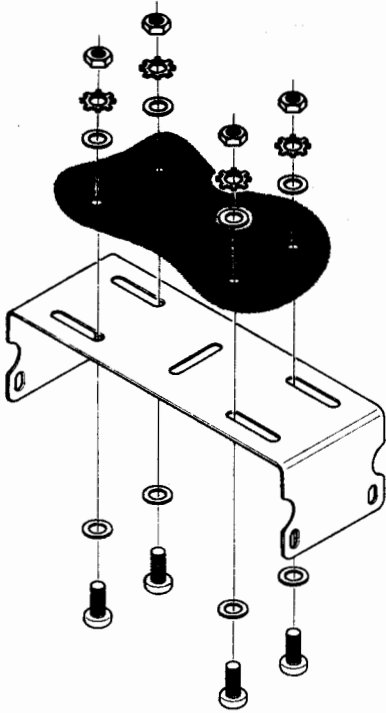
○ トランシーバーの取り付け、取り外しをする際には、電源スイッチを切り、必ず電源ケーブルとアンテナの同軸ケーブルを外してから行ってください。ケーブルを接続したままで取り付け、取り外しを行いますと、ケーブルの長さに余裕がない場合には、ケーブルに無理な力が加わって、断線、ショートの原因になる事があります。

取り付け方法

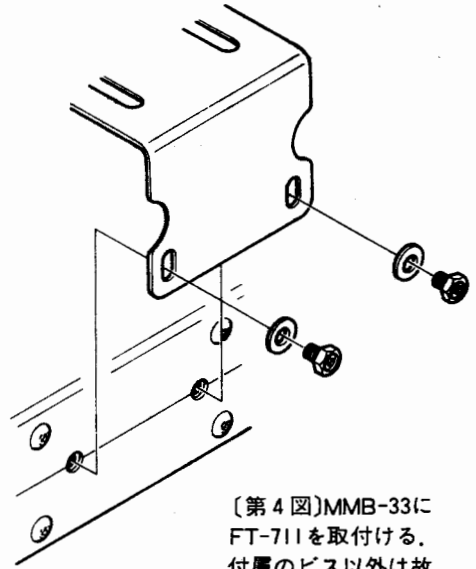
(1) 取り付け場所にMMB-33を当てて取り



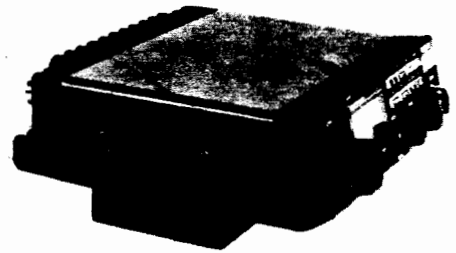
(第2図)MMB-33の取付寸法図



〔第3図〕MMB-33の取付け方法



〔第4図〕MMB-33にFT-711を取付ける。付属のビス以外は故障の原因になるので使わないこと



〔写真1〕固定運用時にもMMB-33

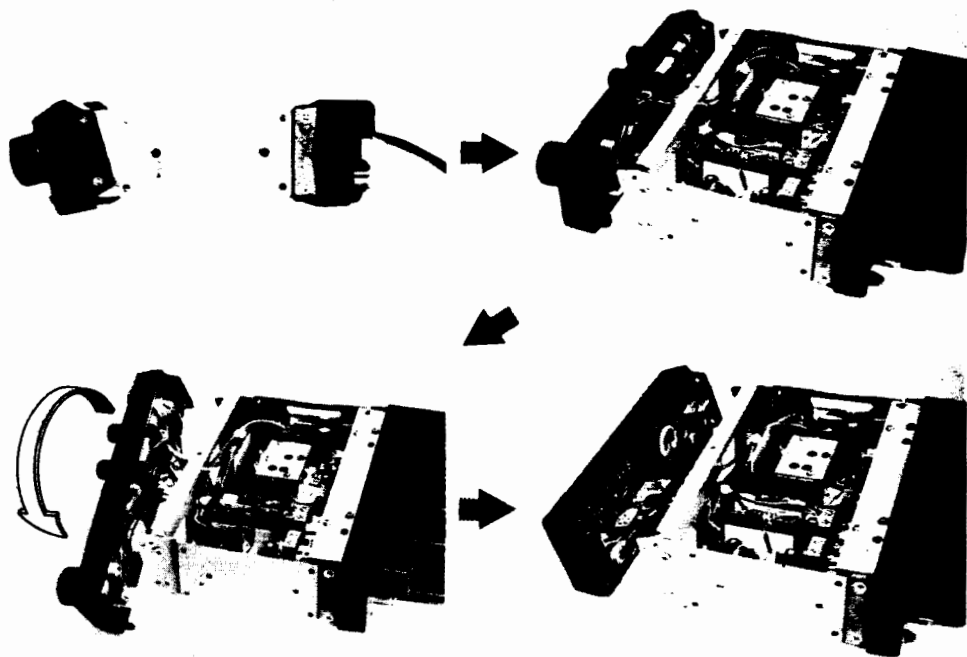
付け穴をあけます（両面テープを利用して張り止めすると、位置の設定が正確に行えます）。

なお取り付けネジは直径5mmですから、5.5mmから6mm程度の穴をあけてください。

- (2) 第3図を参考に付属のビス、ワッシャ、ナットを使用して振動などでゆるまないようにMMB-33をしっかりと固定します。
- (3) 第4図を参考にトランシーバーの取付穴（片面に2ヵ所ずつ、両面で4ヵ所）に付属のワッシャとビスで固定します。

固定運用時にもモービルブラケット

内蔵スピーカーが本体の底面についているため、外部スピーカーを使わない場合は固定運用時においてもモービルブラケットを使うと便利です（写真1）。このようにして使うと放熱効果も良好になるため、とくに35W型では推奨できる使用形態です。



〔写真2〕パネル面の上下を入れかえる方法

パネル面の取り付け方向が変わる

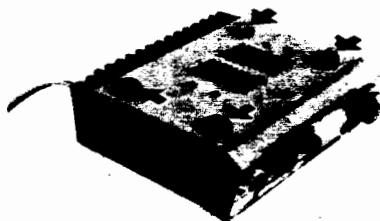
本機のパネル面は本体に対して15度の角度で取り付けられています。これは目の高さより低いところに置いたときに、パネル面が見やすいように配慮したためです。

目の高さより高い場所に本機を取り付けた場合は、パネル面を下向きにできるのが本機の特長です。パネル面を下向きにするためには上下のケースをはずし、パネル面をシャーシに取り付けている左右2本ずつのネジをはずします。これでパネル面がシャーシからはずれますから、配線を切らないように注意しながらパネル面を逆に入れかえます(写真2)。

ゴム足の取付け位置

固定運用時にモービルブラケットを使わない場合は、付属品のゴム足をご利用ください。ゴム足の取付け位置は写真3の矢印の位置にします。

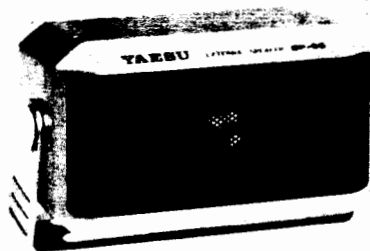
〔写真3〕ゴム足の取付け位置



オプション

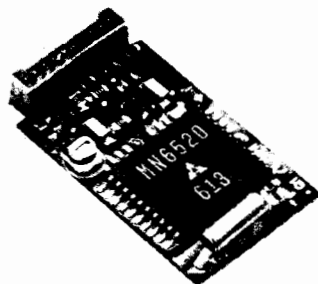
外部スピーカーSP-55

高音質の外部スピーカーです。トランシーバーの取付場所などにより音量が不足する場合がございます。より明瞭な受信ができます。小型ですから運転の妨げにならない最適な場所でご使用いただけます。



トーンスケルチユニットFTS-12

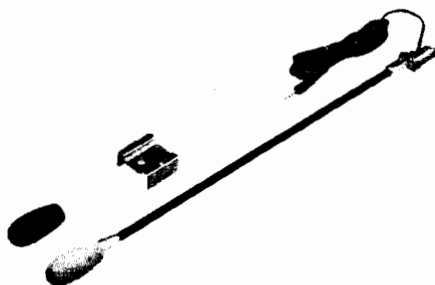
特定局との待ち受け受信（トーンスケルチ受信）を行うときに取り付けるユニットです。トーン周波数は37波で、メインダイヤルを回してトーンを選択できます。



モバイル用フレキシブルマイク

MF-1_{A3B}

モバイルに最適なフレキシブルマイクです。SB-10と組み合わせて使用します。



ヘッドセットYH-1

ヘッドホンにマイクロホンを組み合わせたヘッドセットです。SB-10と組み合わせて使用します。



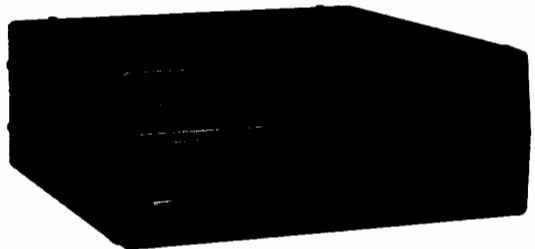
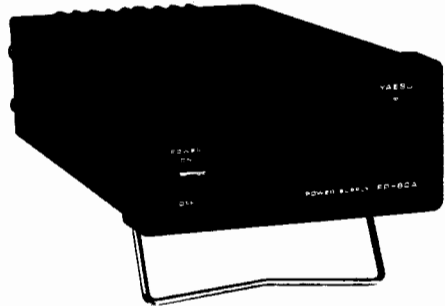
PTTスイッチボックスSB-10

MF-1ASB、YH-1 と組み合わせ、手元で送受信の切り換えができます。





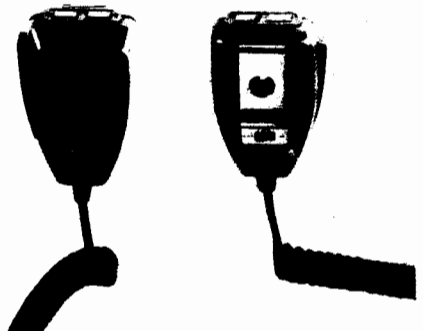
交流用電源FP-80A、FP-700

FT-711を交流100Vで使用する場合の交流用電源で、FT-711LにはFP-80A、FT-711HにはFP-700が最適です。



マイクロホンについて

MH-10E8 の上部にある“UP”または“DWN”スイッチは、パネル面の 、 キーと同じ動作をします。またマイクの背面下にはロックスイッチがあり、これをONにすると誤まってUP/DWNスイッチに触れても周波数が変わる心配はありません。



使 い 方

まず“各部の操作と接続”など各部の説明と“ご使用の前に”のページをよくお読みください。

これにより各部の使いかた、注意事項がおわかりいただけると思いますが、さらにセットを梱包より取り出したときから順に準備と基本操作をしてみましょう。

なおメモリー動作およびスキャン動作などについては、16ページの“各種の機能と操作”の項目で説明してあります。

1. ③VOLツマミを反時計方向にまわし切って、電源スイッチがOFFになっていることを確認します。



2. ④SQLツマミを反時計方向にまわし切ります。



3. ⑧LOWスイッチを“OFF”（手前に出た状態）にします。

4. アンテナから来ている同軸ケーブルを、本体背面のANT端子に接続します。



5. 付属の電源ケーブルのプラグを接続します。電源ケーブルの一端はまえてバッテリーなどの電源側に接続しておいてください。+（赤色）と-（黒色）の極性に注意。



6. ③VOLツマミを時計方向にまわして、電源スイッチをONにします。⑦BUSYとON AIRのインジケータの緑色が点灯し、0.5秒後に②ディスプレイに430.000MHzが表示されます。



7. ③VOLツマミを時計方向にまわしていくと、ザーというFM特有のノイズが聞えます。このノイズは④SQLツマミを時計方向にまわしていくと、スケルチが閉じ(ザーというノイズが聞えなくなる)、⑦BUSYインジケータが消灯するところがありますから、それより少し時計方向にまわした位置に④SQLツマミを固定します。

この位置よりさらに時計方向に④SQLツマミをまわすと、スケルチが開くのに必要な信号レベルが高くなります。また弱い信号の受信を目的とするときは、スケルチを浅く(反時計方向にもどす)したり、あるいは完全にスケルチを開くなど、相手局の信号強度にあわせて④SQLツマミを調節してください。

8. ①ダイヤルをまわして希望の運用周波数に合わせます。周波数の変化は、時計方向にまわすと1ステップずつ周波数が高くなり、また反時計方向にまわすと低くなります。

1ステップの周波数変化は10kHzおよび20kHzの2種類に切り換えることができます。またスキャンによる周波数の設



定など各種の操作は、16ページの“各種の機能と操作”で説明してあります。

9. 受信ができれば、つぎにマイクロホンを接続して送信をしてみましょう。

送信するときは必ずアンテナまたはダミーロードを接続し、無負荷では絶対に送信しないように十分ご注意ください。

マイクロホンのPTTスイッチを押すと、⑦ON AIRインジケータが赤色で点灯して、送信状態に切り換わったことを知らせます。PTTスイッチを押した状態でマイクロホンに向かって送話すれば通話ができます。PTTスイッチを離すと受信状態にもどります。



10. 近距離と交信する場合などは⑧LOWスイッチを押し込み、送信出力を下げた状態で送信します。スイッチをもどすと、送信出力はハイパワーになります。

なおタイプ別のHIGH/LOW送信出力はつぎの通りです。



FT-711L 10W/1W



FT-711H 35W/4W





各種の機能と操作


作で簡単にメモリーを読み出すことができます。

1. 周波数の設定

送受信周波数はダイヤルおよびキーボードの ,  キーまたはマイクの UP, DWN キーにより、1ステップにつき10kHzまたは20kHzで変化させることができます(ダイヤルモード時)。

1ステップの周波数変化量はキーボードの  キーと  キーを続けて順に押すことにより切り換わり、押すたびに10kHzステップ⇒20kHzステップ⇒10kHzステップ⇒20kHzステップに切り換わります。

また  キーを押したあとに続けて  キーを押すと1MHzアップ、反対に  +  と押すと1MHzダウンになります。

あるいは  を押してからダイヤルをまわしても1MHzずつ周波数が変化します。この場合、周波数のアップ・ダウンはダイヤルをまわす方向により決まります。


2. メモリーチャンネル










本機には周波数のほか送信オフセット情報(シフト方向)、トーンスケルチ情報(運用状態とトーン周波数)も同時に記憶する10チャンネルのメモリーチャンネルがあり、ダイヤルまたはキーボードの操

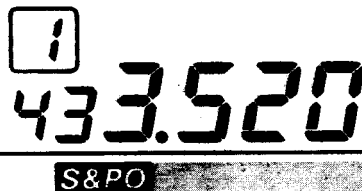
(1) メモリーセット


① シンプレックスメモリー

メモリーチャンネルに周波数をメモリーするための操作です。

【例】メモリーチャンネル  に 433.520MHz をメモリーする場合。

1. “周波数の設定”操作によりメモリーしたい433.520MHzを設定します。
2. キーボードの  キーと  キーを続けて順に押すとディスプレイ左上の枠内に点滅するメモリーチャンネル番号が現われるので、ダイヤルまたは   キーによりメモリーしたいメモリーチャンネル番号(この場合は ) が点滅するようにします。
3. この  が点滅している間に  キーを押すと、  の点滅が点灯に変わり、やがて消えます。
4. これでメモリーは終了し、自動的にダイヤルモードにもどったことになります。
なお確認のために  キーを押すとディスプレイ面には




433.520
S&PO

が表示され、チャンネル **[1]** に 433.520MHz がメモリーされたことがわかります。

② セミデュプレックスメモリー

受信周波数と送信周波数の異なる二つの周波数を一つのメモリーチャンネルに入れ、スプリット運用を行う操作です。

ただしセミデュプレックスメモリーができるチャンネルは **[0]** から **[6]** までの7チャンネルです。

【例】メモリーチャンネル **[2]** に受信周波数として433.500MHz、送信周波数として433.200MHzをセミデュプレックスメモリーする場合

1. まずはじめに“シンプレックスメモリー”の方法で、メモリーしたいチャンネル（この場合は **[2]**）に受信周波数である433.500MHzをメモリーします。
2. つぎに“周波数の設定”操作により送信周波数433.200MHzを設定します。
3. キーボードの **[M]** キーと **[D/MR]** キーを続けて順に押し、さらにPTTスイッチを押しながら（このときPTTを押しても送信状態になりません）、もういちど **[D/MR]** キーを押します。
4. 以上でセミデュプレックスメモリーは完了です。この方式により設定した受信周波数はレピーター運用に使えます。ただしこの場合はFTS-12が必要です。

(2) メモリーチャンネルの呼び出し

1. キーボードの **[D/MR]** キーを押すとディ

スプレイにメモリーチャンネル番号が点灯して、メモリーチャンネルが呼び出されたことを示します（メモリーモード）。

2. ダイヤルまたはキーボードの **[▲]**、**[▼]** キーにより、希望するメモリーチャンネルを呼び出します。

（注）セミデュプレックスメモリーをしたメモリーチャンネルを呼び出すと、ディスプレイに **[+]** の表示が点灯します。このとき **[REV]** キーを押して、送受信周波数を反転することができます。

なおセミデュプレックスで **[REV]** キーにより送信周波数を呼び出したとき、受信時に限り **[+]** の表示が点滅します。本来は送信周波数として設定されたものであることを知らせるためです。


(3) コールチャンネルの設定



メモリーチャンネル **[0]** にメモリーした周波数は、コールチャンネルとして **[CALL]** キーを押すことによりワンタッチで呼び出せます。



JARL制定のFM用コールチャンネルは433.000MHzですから、シンプレックスメモリーを参照しながら433.000MHzをチャンネル **[0]** にメモリーしてください（出荷時には、430.000MHzがチャンネル **[0]** に入っています）。




なお **[CALL]** を押してコールチャンネルを呼び出したときは、ディスプレイ左上の枠の中に **[0]** ではなく **[C]** が表示されます。

(4) メモリーチャンネルクリア

メモリーしたメモリーチャンネル（メモリーチャンネル  を除く）を一時的に消去することができます。

1. キーボードの  キーと  キーを続けて順に押すと、ディスプレイに点滅するメモリーチャンネル番号が表示されます。


,  キーまたはダイヤルにより消去したいメモリーチャンネルの番号が点滅するようにします。

2. ふたたび、キーボードの  キーと  キーを続けて順に押すと、メモリーチャンネル番号はチャンネル  にもどり、希望のチャンネルはクリアされます。
3. メモリーチャンネルクリアしたチャンネルは上記の1.と2.の操作をくり返すことにより、呼びもどすことができます。

(5) メモリー周波数などの消去






すでにメモリーされたメモリーチャンネルに新しい周波数などをメモリーすると、古い周波数などは消去され、新しい周波数などがメモリーされます。

(6) メモリーチャンネル運用の解除

キーボードの  キーを押すと、ダイヤルモードに切り換わります。

3. スキャンコントロール

本機はダイヤル周波数とメモリーチャンネルを、オートスキャンコントロールの方法で操作できます。オートスキャンコントロールとは、信号が入感した周波数またはチャンネルでスキャンが止まる方法です。このとき、まえもって無信号時にスケルチが閉じ、信号が入感したときにスケルチが開くようにSQLツマミを調整しておきます。

1. キーボードの ,  キーを0.5秒以上押し続けると、それぞれの方向にスキャンを開始します（ダイヤルモード時にはダイヤル周波数スキャン、メモリーモード時にはメモリーチャンネルスキャン）。
2. スキャン中に信号が入感するとスキャンが一時停止し、信号がなくなるとふたたびスキャンをはじめます。なお一時停止中でもスキャンは動作していることを表示するため、MHz桁の小数点が点滅します。
3. スキャン操作はつぎの方法により解除できます。
 - ・キーボードの  または  キーをワンタッチで押す。
 - ・キーボードの  キーを押す。
 - ・マイクのPTTスイッチをワンタッチで押す（この場合はスキャン動作が止まるだけで、送信状態にはなりません）。

4. プライオリティ

ダイヤルモードまたはメモリーモードで受信中、約5秒に1回メモリーチャンネルを受信する“優先チャンネル監視”機能です。無信号時にスケルチが閉じ、信号が入感したときにスケルチが開くように、まえもってSQLツマミをセットします。

スキャンコントロール機能と同じように、優先チャンネルに信号が入感するとプライオリティ動作が一時停止し、優先チャンネルを受信します。信号がなくなると、ふたたびプライオリティ動作を開始します。

なお一時停止中も、プライオリティ機能は動作していることを表示するため、MHz桁の小数点が点滅します。

(1) ダイヤルモード時のプライオリティ

ダイヤルモードで受信中に、指定したメモリーチャンネルを約5秒に1回受信する機能です。

1. プライオリティしたいメモリーチャンネル（優先チャンネル）を呼び出し、ふたたび **[DIAL]** キーを押してダイヤルモードにもどします。
2. キーボードの **[M]** キーと **[PRI CALL]** キーを続けて順に押すと、ディスプレイに **[P]** の表示が点灯してプライオリティ機能が動作をはじめます。

(注) プライオリティ機能が動作中でも、送信はもちろん、ダイヤル周波数を変えることもできます。ただしダイヤル周波数で送信中はプライオリティチャンネルの受信はできません。

3. プライオリティチャンネルで信号が入感したとき、そのチャンネルで送信するとプライオリティ機能は解除され、自動的にメモリーチャンネルでの送受信に切り換わります。

(2) メモリーモード時のプライオリティ

メモリーモードで受信中に、メモリーチャンネル **[!]** を約5秒に1回受信する機能です。

1. メモリーチャンネル **[!]** にプライオリティ受信したい周波数をメモリーします。
2. 他のメモリーチャンネルを受信中にキーボードの **[M]** キーと **[PRI CALL]** キーを続けて順に押すと、ディスプレイに **[P]** の表示が点灯してプライオリティ機能が動作をはじめます。

(注) プライオリティ機能が動作中でも、送信はもちろん、メモリーチャンネルを変えることもできます。ただしメモリーチャンネルで送信中はプライオリティチャンネル **[!]** の受信はできません。

3. プライオリティチャンネル **[!]** で信号が入感したとき、そのチャンネルで送信するとプライオリティ機能は解除されま

(3) プライオリティ機能の解除

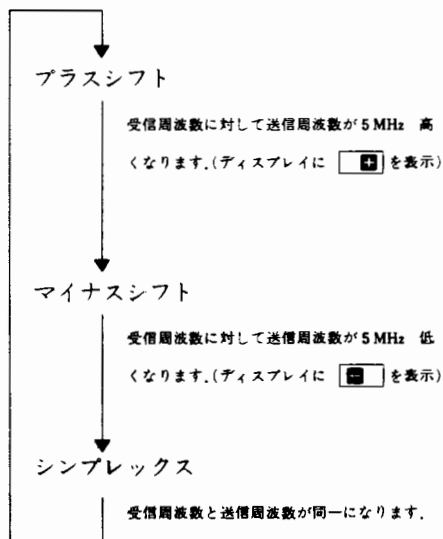
キーボードの **UNPR** キーを押します。

5. レピーター運用

(送信オフセット機能)

送信と受信に異なる周波数を使う機能で、周波数の差(シフト幅)は5MHzにセットしてあります。

1. キーボードの **RPT** キーを押すごとに



の動作を繰り返し、シフト運用が行えます。

シフト運用中に“メモリーセット”操作を行うと、運用周波数と同時にシフト方向もメモリーできます。

2. 送信オフセット運用時にキーボードの **REV** キーを押すと、送受信周波数が反転してリバーズ運用になります。

(リバーズ運用中には **+** または **-**)

の表示が受信時に点滅します。)

6. トーンスケルチ運用

希望によりオプションのトーンスケルチユニット“FTS-12”を取り付けることができます。FTS-12の取り付け方法については23ページをご参照ください。

なお全国各地にJARLが設置した430MHz帯のレピーターは、アクセスするために88.5Hzのトーンエンコーダーが必要です。そのため本機は“FTS-12”を内蔵させない場合でも、**RPT** キーを押すと88.5Hzのトーンで変調されるように設計されています。

キーボードの **RPT** キーを押すと同時に **ENC** が表示され、88.5Hzのエンコーダーが動作していることを示します。不必要な場合は **UNPR** キーを押せば、エンコーダーをOFFにすることもできます。

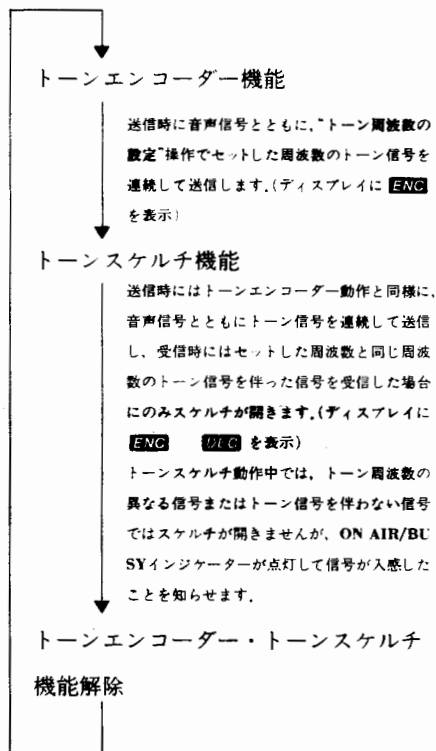
(1) トーン周波数の設定

1. キーボードの **T SET** キーと **T SET** キーを続けて順に押すと、ディスプレイにトーン周波数が表示されます。ダイヤルまたはキーボードの **▲**、**▼** キーで希望するトーン周波数を選択します。
2. 希望するトーン周波数を選択したら、ふたたび **UNPR** キーを押すと、ディスプレイの表示は周波数表示にもどりますが、トーン周波数は設定されています。

(2) トーンエンコーダーと

トーンスケルチの切り換え

1. キーボードの **TONE** キーを押すごとに、



の機能が切り換わります。

2. トーン周波数とその機能も同時にメモリーチャンネルに入れることができます。

その場合は周波数とトーン周波数および機能 (**ENC** または **ENC** **DEC**) を設定したあと、メモリーのための操作を行ってください。

7. その他の機能

(1) キーロック

キーボードの **LOCK** キーと **RPT** キーを続けて順に押すと、キーボードを電気的にロックすることができます。この状態ではキーボードのキーを押しても動作しません (ダイヤルは動作します)。

キーロックを解除するには、**LOCK** キーと **RPT** キーを続けて順に押します。なおキーロック状態ではディスプレイに **L** が表示されます。

(2) エラーメッセージ

キーの操作が有効でないとき (間違えて押したとき) には「ピピッ」という電子音が鳴ります。また送信操作が有効でないときには電子音とともに、ディスプレイに「Err」を表示します。


(3) メモリーバックアップ機能

本機にはメモリーの内容および電源スイッチをOFFにするまえに設定してあった運用状態を記憶するバックアップ機能を備えています。

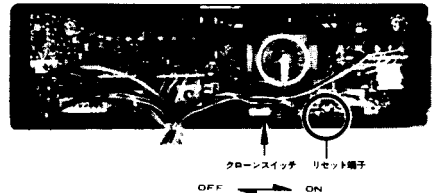
万一、ディスプレイにバンド外の周波数など無関係な表示をして正常な動作をしない場合には、写真4に示す基板のTP端子間をピンセットなどでショートさせ、CPUをリセットしてください。これにより初期状態にもどり、ふたたびバックアップ機能が正常な動作をはじめます。

クローンの方法

クローン機能とは1台のFT-711(送り側)のメモリー内容を、他のFT-711(受け側)に転送して複製する機能で、つぎの手順により操作します。

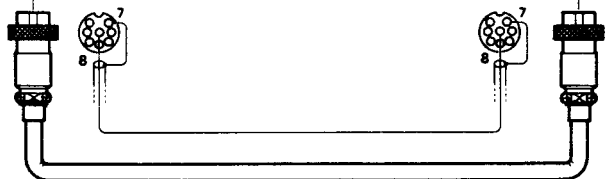
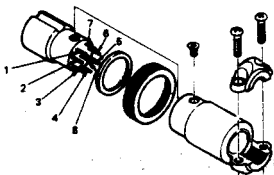
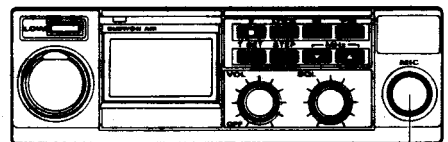
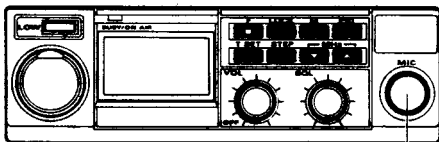
1. 送り側、受け側の電源を両方ともOFFにして、下面ケース(スピーカーがとりつけられている面)をはずします。そして本体底面にあるクローンスイッチ(写真4の矢印)を“ON”にします。
2. 電源を“ON”にするとディスプレイの全表示が点滅をはじめます。
3. 送り側と受け側のMICジャックを、図に示す接続ケーブルで接続し、受け側の▼キーを押します(押したときのタイミングにより、ディスプレイの表示が点滅から点灯または消灯に変わります)。
4. つぎに送り側の▲キーを押すと、受け側の表示がメモリーチャンネル  の表示に変わり、メモリーの転送が完了します。

5. もしディスプレイに“Err”の表示が出たときは、受け側の電源を一度“OFF”にしてディスプレイの表示を点滅にもどし、再度上記3.と4.の操作をくり返えします。
6. メモリーの転送が完了したら送り側と受け側の電源を“OFF”にしてから接続ケーブルをはずし、クローンスイッチを“OFF”にもどします。



【写真4】クローンスイッチの位置

(パネル面を本体からはずして撮影、ただし実際にはパネル面をはずさないで操作できます)

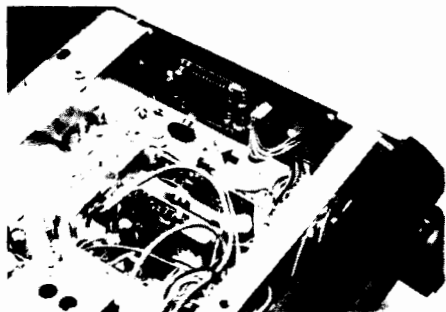


FTS-12 トーンスケルチ、トーンエンコーダーの取付方法

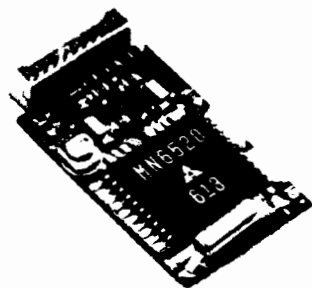
FTS-12を組み込むと37種類のトーンを選択できるトーンスケルチ、トーンエンコーダー運用ができます。トーン周波数については下の表をごらんください。

取り付け方法

1. 本体下面（スピーカーがとりつけられている面）のビス1本、ケースの両側にある2本ずつのビス（合計で4本）をとり、下面ケースを取りはずします。
2. 写真に矢印で示す抵抗(22k Ω)のリード線をニッパで切断してください（後日FTS-12を取りはずして使う場合は、この部分をふたたびハンタ付けしないと受信できなくなりますからご注意ください）。
3. パネル面から向って右前に茶色の10ピンコネクタがあるので、これをFTS-12に差し込みます。



4. 写真に示す位置にある両面テープの保護シートをはがし、その部分にFTS-12を貼りつけます。
5. 以上で組み込みは終了ですが、元通りにケースを取り付けるまえにコネクタがキチッと差し込まれていることを確認してください。（4. の段階でFTS-12をシャーシ内側に貼りつけたあと、コネクタを差し込んでも結構です。この場合は3. を省略することになります）。
6. FTS-12は各種の測定器を使用して調整し、標準セットで検査のうえ出荷しているため、取り付け後の再調整は必要ありません。万一、トーンレベルの調整が必要な場合には、VR1で行います。



CTCSS Tone Frequency (Hz)			
67.0	100.0	141.3	203.5
71.9	103.5	146.2	210.7
74.4	107.2	151.4	218.1
77.0	110.9	156.7	225.7
79.7	114.8	162.2	233.6
82.5	118.8	167.9	241.8
85.4	123.0	173.8	250.3
88.5	127.3	179.9	—
91.5	131.8	186.2	—
94.8	136.5	192.8	—

共通規格

送受信周波数範囲 430~440MHz
 送受信周波数 上記範囲内で10kHz
 /20kHz ステップ
 電波の型式 F3(FM)
 アンテナインピーダンス 50Ω 不平衡(M型接栓)
 使用温度範囲 -10℃ ~ +50℃
 周波数偏差 ±5 ppm以下
 電源 直流13.8V ±15%
 マイナス接地
 消費電流 受信無信号時 500mA
 信号入感時 700mA
 送信時

	HIGH	LOW
FT-711L	3.5A	1.5A
FT-711H	8.5A	4A

ケース寸法(mm)と重量(kg)

	幅	高さ	奥行き	重量
FT-711L	160	50	145	1.3
FT-711H	160	50	175	1.5

(ケース寸法は突起物を含まない)

送信部

定格終段入力 FT-711L 25W
 FT-711H 60W
 送信出力 FT-711L 10W
 FT-711H 35W
 変調方法 リアクトンス変調
 最大周波数偏移 ±5 kHz
 占有周波数帯域幅 16kHz以内
 不要輻射強度 -60dB以下
 マイクロホンインピーダンス 400Ω

受信部

受信方式 ダブルコンバージョン
 スーパーヘテロダイン
 中間周波数 17.2MHz/455kHz
 受信感度 0.2μV以下
 SINAD 12dBにおいて
 スケルチ度 0.125μV以下
 イメージ比 50dB以上
 選択度 -6dB ±7.5kHz以上
 -60dB ±15kHz以下
 低周波出力 1.5W以上
 8Ω負荷(THD 5%)
 低周波出力インピーダンス 4~16Ω (8Ω標準)

(JAIAで定めた測定法による)

ご 注 意

■安全上の注意

- 電源電圧は、
12-16Vです。付属の電源コードを使用し、直流電源に接続してください。動作電圧を越えると危険ですから注意してください。
- 異常と感じたときは、
煙がでている、変な臭いがする………などの故障状態のまま使用すると危険です。すぐに電源スイッチを切り、お買上げの販売店またはもよりの当社サービスステーションへ修理をご依頼ください。
- セットの内部に触れることは、
故障の原因となります。クローンスイッチの操作以外は手を触れないでください。内部の点検、調整はなるべくお買上げの販売店またはもよりの当社サービスステーションへお任せください。
- 水がこぼれたときは、
セットのそばに花ビン、化粧品、薬品、飲料水など水の入った容器を置かないでください。
万一、内部に水が入った場合は、電源スイッチを切り、お買上げの販売店または当社サービスステーションへご相談ください。

■取扱上の注意

- 変形、変色、熱、雑音、破損などを防止するため、次のような場所ではできるだけさけてください。
○周囲温度が極端に高い所または極端に低い所、○湿気の多い所、○寒い部屋から急に暖かい部屋への移動、○直射日光の当る所、○暖房器のそば、○不安定な所。
- モバイル運用などで、
無線中継所の近くでは、業務用無線通信に妨害をあたえる場合がありますのでご注意ください。
- 外部アンテナは、
テレビアンテナや、電灯線からなるべく離してください。
- ケースが汚れたら、
中性洗剤を湿した布などで軽くふいて汚れを落とし、乾いた布でふきとります。シンナーやベンジンは使用しないでください。

故障？と思う前に

故障かな？と思ったら……

修理を依頼する前に、ちょっとお確かめください。

■音がでない

- 電源スイッチはONになっていますか。
- 音量調節器（VOL）が反時計方向に絞ってすぎいませんか。
- スケルチはオープンになっていますか。スケルチコントロール（SQL）を時計方向に回しすぎいませんか、トーンスケルチ運用になっていませんか。
- 電源の接続はまちがっていませんか。
- 電源の電圧は正常ですか。
- アンテナは確実に接続してありますか。
- 外部スピーカーの接続はまちがっていませんか。

■電波が出ない

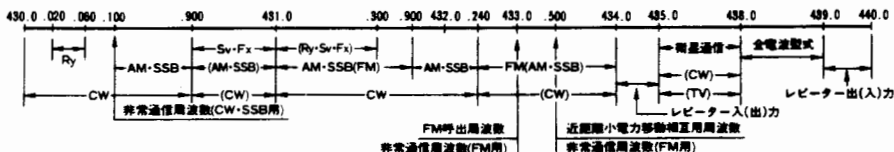
- マイクロホンに確実に接続してありますか。
- マイクロホンのPTTスイッチは確実に押していますか。
- アンテナは確実に接続してありますか。
- アンテナのSWRは異常ありませんか。
- 電源の電圧は正常ですか。
- 送受信シフトで送信時オフバンドになっていませんか。

JARL 430MHz帯の使用区分について

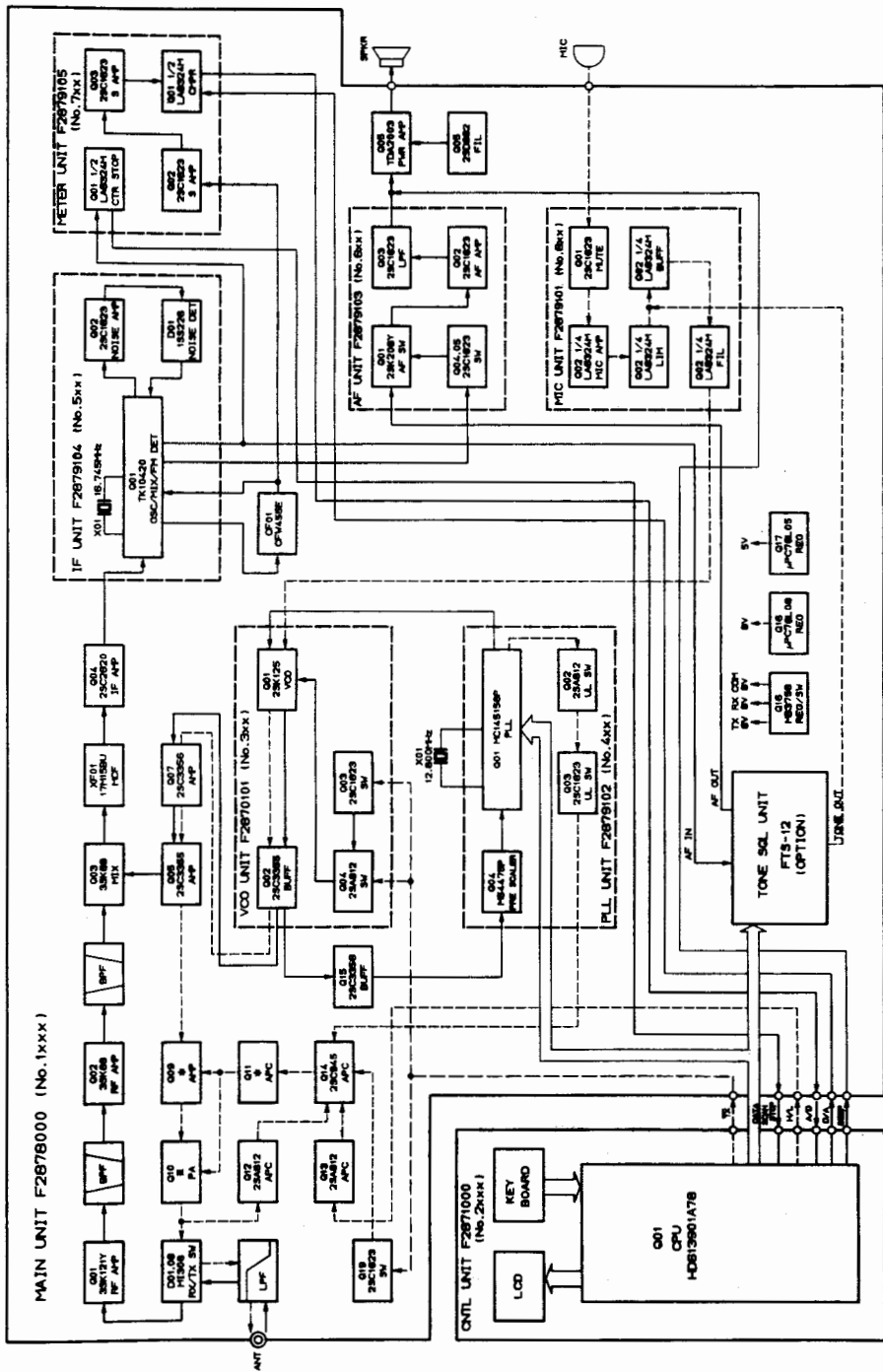
UHF帯は、JARL（日本アマチュア無線連盟）によって、バンド内の使用区分が定められていますので、このルールに従って運用されるようおすすめいたします。

（昭和60年4月1日より実施の新区分）

430MHz帯



- （注1） 431.900MHz～432.240MHzの周波数帯は、月面反射通信、流星散乱通信、オーロラ反射通信などに使用する。
- （注2） 431.000MHz～431.900MHz及び432.240MHz～434.000MHzの各周波数帯のFM電波の占有周波数帯幅は、16kHz以下とする。
- （注3） レビーター用入出力周波数帯の入出力周波数は、別に定める。
- （注4） FM系によるRTTY、SSTV及びFAXの運用は、431.000MHz～431.300MHz及び全電波型式の周波数帯を使用する。



FT-711 series
BLOCK DIAGRAM

--- TX LINE
--- RX LINE
--- COMMON LINE

Q00	Q10	Q11
FT-711H 2803407H	M57799A	285B42
FT-711L 2803407A	M57704M	2881134R

ブロックダイアグラム

ノイズスケルチのレベル調整

FM受信機は絶えず最高感度で動作しているため、受信信号が入感していないときはザーという雑音が生ずる。これをなくするには、無信号時にザーという雑音が出ないようにするのがスケルチ回路の役目です。つまりスケルチ調整用のつまみをまわして、雑音が生ずる点に設定するのがスケルチ用つまみです（第1図）。

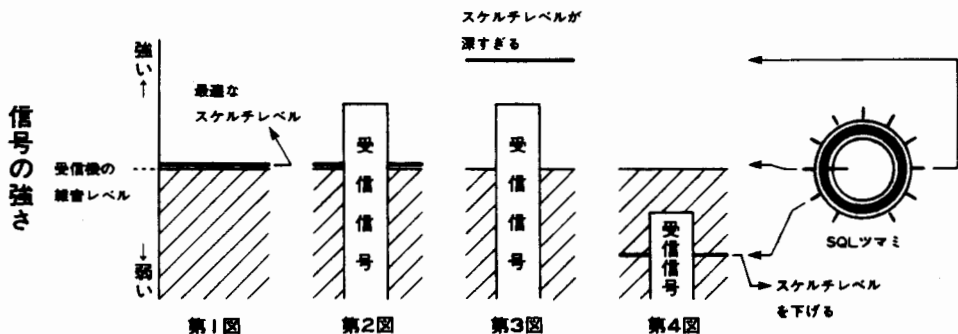
この状態で強い信号が入感すると、あらかじめ設定したスケルチレベルを突き破って信号が受信できます（第2図）。ところがスケルチ用つまみを時計方向にまわしすぎると、つまりスケルチレベルが高すぎると、第3図のように強い信号でもスケルチレベル以下になってしまい受信音がスピーカーから出てきません（Sメーターは振れていません）。

したがってスケルチ調整用のつまみは第1図のように雑音が生じたところに調整し、それ以上は時計方向にまわさないのが上手な使いかたです。

また雑音レベル以下の弱い信号を受信するときは、第4図のようにスケルチレベルを下げてやれば（つまみを反時計方向にまわす）、ザーという雑音は出たままにはなりますが、目的とする信号も雑音にまぎれて聞えてくることになります。

なお第1図では“雑音が生じたところにスケルチ調整用のつまみを設定する”と説明しましたが、運用する周囲の状況に応じて、その位置より少し時計方向（つまりスケルチレベルを少し深く）につまみをまわす必要があります。

その理由はノイズのレベルは図のように平坦ではなく、多少の強弱があるからです。



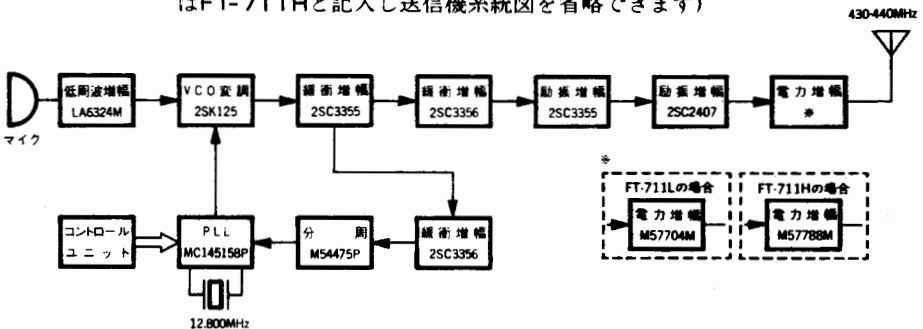
アマチュア無線局免許申請書類の書き方

21 希望する周波数の範囲、空中線電力、電波の型式

周波数帯	空中線電力 (W)	電波の型式	周波数帯	空中線電力 (W)	電波の型式
430M	10	F3	430M	50	F3
FT-711Lの場合			FT-711Hの場合		

22工事設計	第1送信機	第2送信機	第3送信機	第4送信機	第5送信機
発射可能な電波の型式、周波数の範囲	F3 430MHz帯		F3 430MHz帯		
変調の方式	F3 リアクタンス変調	FT-711Lの場合	F3 リアクタンス変調	FT-711Hの場合	
名称個数	M57704M×1	×	M57788M×1	×	×
	電圧・入力	13.8V 25W	V W	13.8V 60W	V W V W
送信空中線の型式			周波数測定装置	A 有 (誤差) B 無	
その他工事設計	電波法第3章に規定する条件に合致している。		添付図面	<input type="checkbox"/> 送信機系統図	

送信機系統図 (JARL保証認定で、FT-711Lで免許申請の場合には登録番号Y112あるいは型名FT-711L、FT-711Hで免許申請の場合にはY113MあるいはFT-711Hと記入し送信機系統図を省略できます)



注) 10Wを超える局は第二級アマチュア無線技士以上の資格をお持ちの方が申請できます。

このセットについて、または、ほかの当社製品についてのお問い合わせは、お近くのサービスステーション宛にお願い致します。またその節はかならずセットの番号（セットの底面にはってある名板および保証書に記入してあります）をあわせてお知らせください。なお、お手紙をいただくときは、あなたのご住所、ご氏名は忘れずお書きください。

八重洲無線株式会社

営業部 ☎ 146 東京都大田区下丸子 1-20-2

札幌 営業所/サービス ☎ 003 札幌市白石区菊水6条1-1-33 石川ビル ☎ 011(823) 1161
仙台 営業所/サービス ☎ 983 仙台市若林区大和町5-6-17 ☎ 022(235) 5678
関東 営業所/サービス ☎ 332 埼玉県川口市弥平 1-5-9 ☎ 048(222) 0651
東京 営業所/サービス ☎ 103 東京都中央区八重洲 1-7-7 ☎ 03(3271) 2861
名古屋 営業所/サービス ☎ 457 名古屋市南区戸部町 2-34 ☎ 052(811) 4949
大阪 営業所/サービス ☎ 542 大阪市中央区谷町9-1-22 NK谷町ビル ☎ 06(763) 7151
広島 営業所/サービス ☎ 733 広島市西区斐本町2-12-30 SKビル ☎ 082(273) 2332
福岡 営業所/サービス ☎ 812 福岡市博多区上牟田1-16-26 第2山本ビル ☎ 092(482) 4082
サービスセンター ☎ 332 埼玉県川口市弥平 1-5-9 ☎ 048(222) 0651